

講義概要

科目名	講義概要
保健科学総論特殊講義	<p>保健科学における疾病の予防には、一次予防（健康維持・増進）、二次予防（早期発見・早期治療）、三次予防（リハビリテーション）の三段階がある。従来の保健科学は、疾病の治療のみを対象とした二次予防に重点が置かれてきた。しかしながら、公衆衛生学・生命科学の発展に伴い一次・二次・三次予防を連結統合した予防医学へとそのフィールドは拡大した。また、保健科学は疾病を持つ人の精神的問題、家庭的問題など社会福祉の分野にまで密接に関わるようになってきた。本科目群では、保健科学に関連する多くの要因について総論的に学習し、本研究科における各論の講義に寄与することを目的とする。</p>
機能障害学特殊講義	<p>「障がい」は多種多様な原因と様態があり、それぞれ医学的のみならず社会的にも異なる対応が求められている。本科目では、多くの面から「障がい」を分析し、それらの特異性について学習し、機能矯正学など、多くの共通選択科目の学習の基礎となるようにしたい。</p>
機能矯正学特殊講義	<p>ヒトの機能矯正の総論的なことを十分に把握していることを前提に、科学的に事象を分析して、客観的に批評できるような思考を形成することを目標とする。医療にかかわる一人のプロフェッショナルとして得意な生体機能機能の矯正機器（ひとつまたは、複数可能）に関して、立案、データ収集、結果作成、考察までの一連の流れを参考英語論文等を通読、精読して、その手技を学習することを目標とする。</p>
精神医学特殊講義	<p>保健の重要な局面である精神保健について、今日的意義、ライフサイクルにおける精神保護の役割、生活の場における精神保健の役割ならびに精神障がいについて学習し、他の種類の障がい、特にその矯正における場合との関連性についての知識の獲得は、問題の解決に大いに応用されるものである。</p>
機能形態学特殊講義	<p>人体の構成とその作用を厳密に定義し、機能障がい、能力障がい、社会的不利の機能形態学的差異、義肢装具の装着における機能再生の生体学的な相違を正確に把握し、行動能力、動作能力の向上に寄与できる思考能力を養うことに役立つ学習をする。また、将来発展が期待される人工再生器官の現状と可能性についての正しい認識の保持に寄与する。</p>
臨床薬理学特殊講義	<p>運動系、聴覚系、視覚系の障害においては、いずれも神経系の異常が関係しており、これらに用いる薬物の知識は必要不可欠なものである。保健科学領域における薬物に関する教育の機会は非常に少ないので、保健科学領域での高度な職能教育に非常に重要な神経系に作動する薬物について学習する。</p>
感染症学特殊講義	<p>（池脇信直）感染症は、微生物が引き起こす疾患であり、感染源（病原体）、伝播（感染）経路、感受性の宿主、の三つの要因が揃った場合に成立する。したがって、感染症を予防するには、これらの要因の少なくともどれか一つを排除すればよい。現在、ヒトに感染する病原体は、細菌 538 種、真菌 317 種、ウイルス 208 種、原虫 57 種を数える。このうち、ウイルスは核酸（遺伝子）をタンパク質の殻が包んだ粒子であり、生きた細胞の中でのみ増殖する、条件付きの生き物である。このほか、感染性の蛋白粒子であるプリオンは、遺伝子を持たない病原体である。ほとんどの感染症が伝染する（うつる）。病原体は増殖し、しかも目に見えない。したがって、病院・施設はもとより、家庭や社会生活においても、感染症と病原体に関する正しい知識と適切な対応が求められる。</p> <p>（鬼塚信）古来より、感染症は人類にとって大きな脅威であった。それは、医学が発展した現代でも同じである。近年、グローバル化に伴い世界ではエボラ出血熱あるいは新型インフルエンザ等様々な感染症の脅威にさらされている。また、我が国においても様々な感染症の流行が確認されている。例えば、結核等過去の病気と考えがちな感染症が蔓延しつつある。一方で、デング熱等新たな流行も確認されている。本講では、このような感染症の実態と予防、最新の治療法を学習する。</p>

科目名	講義概要
免疫学特殊講義	<p>免疫系の構造ならびに機能について学習し、免疫、誘発された感受性あるいはアレルギー、抗原抗体反応について学習することは、生体の周囲、環境に対するあらゆる反応を理解するのに役立ち、これらの反応に起因する多くの障がい原因の解明、予防、回避、機能回復の研究に重要な事項を学習する。</p>
機能障害学各論特殊講義	<p>(大野英治) 本邦における子宮体癌は増加の一途である。 本特殊講義では、子宮体癌の細胞診断につき詳述し、子宮体癌における癌幹細胞についても解説を加える。</p> <p>(竹澤真吾) 慢性腎不全患者の原疾患比率は、糖尿病性腎症がトップである。透析導入時には四肢不自由、視覚障害を伴うことが多く、身体機能低下症例がほとんどといえる。また、これら患者は高齢化しており、身体的および精神的負担も多い。</p> <p>(福本安甫) 機能障がい(I C F (国際生活機能分類))による生活機能障がいの視点からとらえ、I C F 分類の妥当性の検証とともにそこに存在する身体的・精神的機能との関係から、生活障がいの本質と関連要因の分析を試みる機会とする。</p> <p>本特殊講義では糖尿病性腎症患者の重複機能障害およびその患者を取り巻く環境について調査、現状における問題点とその解決方法について学ぶ。</p>
機能矯正学各論特殊講義	<p>(福本安甫) 機能障害学各論によって得られた知識を基に I C F 分類の妥当性を検証する方法を検討し、それによって得られたことを根拠として個々の障がいに対する治療訓練法の効果について考える機会とする。特に、高齢者の増大に伴って発生頻度が高くなる脳血管障害や痴呆などの脳・神経系疾患を中心に講義を進める。</p> <p>(吉武重徳) 主要臓器(循環器、呼吸器、代謝内分泌関連臓器)の障がいをここでは取り扱う。各種臓器機能は低下していくが、その過程が、急性、亜急性そして、多くは慢性といった経過をたどる。その中で、代償的機転が作用して維持していくこともある。その変化は徐々に認められることも多く、次の検査、診断評価、次の治療を必要とするのかを考えることが、個人、家族、社会、医療経済を含め重要となってくる。</p> <p>また、人工臓器、臓器移植といった治療が、諸外国と比較して現状と将来的にどうあるべきかを個人、家族、社会、医療経済にあたるインパクトさらに、倫理的配慮について総合的に判断していく課程を学習する。</p>
保健科学特殊研究	<p>研究を行うのに必要な手続きや手法について院生に指導し、院生の研究の成果を論文として纏める。具体的には、博士論文作成のための先行研究について指導を行い、学生の思索能力を高める。文献の講読を行いながら、仮説を立案し、リサーチを行う院生には調査の計画を、文献研究を考えている院生にはその構想を立案させ、その研究の進捗状況に沿って集中的に必要な指導と援助を行う。</p>